

優秀賞

ぼくの未来体験記

徳島県 徳島文理小学校五年 岡本 篤典

映画で見たような世界が、もう現実に取りつきようとしている。ぼくはワクワクして、少しくん張して、手の先が冷たくなった。

八月。夏休みが半分過ぎようとしているころ、ぼくは種子島に行った。目的地は種子島宇宙センター。ぼくが前からずっと行きたかったところだ。しかし、今回、ぼくは「ふつう」に種子島に行ったのではない。飛行機にも乗ってないし、一人で行った。実はぼくは、JAXAが募集していた、えんかくそうさの技術のモニターとして、ぼくの家にいるままで念願の種子島宇宙センターに行ったのだ。

コロナ禍でなかなか遠くへ旅行する機会がなく、夏休みもこのまま終わってしまうのかな、と思っていた時に、ごほうびのように、こんな体験ができることになり、うれしくてたまらなかった。

母がパソコンに体験に必要なアプリやセットアッ

プをして、ぼくもヘッドフォンをつけて、その時を待っていた。ヘッドフォンをしているからか、ぼくの心ぞうのドクンドクンという音がすごく聞こえる。画面で徳島から鹿児島へワープするようになると、次のしゅん間、ナビゲートしてくださるJAXAの方が画面にうつった。うしろには、夢にまで見た種子島宇宙センターが見える。心の中ではジャンプしながら「わー」と言っていたが、気持ちをおさえて、「よろしくおねがいます。」とあいさつした。

そのあとがすごかった。ぼくが行きたいところにぼくのそうさで現地にあるぼくのアバターが動く。上を見たり下を見たり、説明を聞いたり、質問したり。もうそこにぼくがいるかのように、体験は進んだ。

最後に、将来は何になりたいかと聞いてくださっ

たので、宇宙飛行士になりたいと言うと、係の方がある場所にゆう導してくださった。それは歴代の宇宙飛行士さんの写真がかかっている部屋だった。そして、

「ここに篤典さんの写真がかざられること、そして、この場所で直接会えることを、楽しみにしていますね。」

と、言ってくださった。すごくうれしかった。胸がいっぱいになって、

「はい。」

としか言えなかったが、ぼくの顔で、気持ちが少しは伝わっていたらいいなと思う。

こんな風に感動いっぱい体験ができて、未来にできないかと思っていたことも、どんどん現実になるんだな、と思った。

ただのパソコンでの会話というのをこえて、これからコロナ禍後までにがんばっていく、大きなパワーと希望をたくさんもらえた。

気持ちが下向きになることもあるが、どんな状況でも、今回のように、ごほうびのような出来事がとつぜん起きることがある。直接でなくても、エールを送ってくださる方がいる。ぼくは感しゃをしなが

ら、今日からも上を向いて前進していきたいと強く思った。

